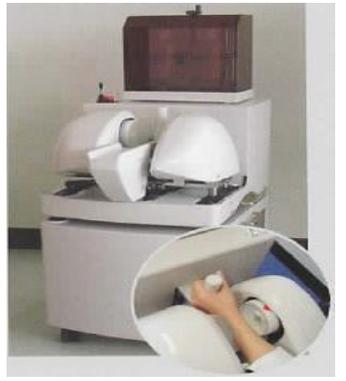


	<b>シーズ名</b>	<b>皮質骨に着目した骨粗鬆症診療に関する研究</b>
	<b>所属・役職・氏名</b>	代謝内分泌病態内科学・講師・山田 真介 (YAMADA, Shinsuke)
<b>&lt;要旨&gt;</b>		
<p>骨は海綿骨と皮質骨より構成される。海綿骨は皮質骨に比べ表面積が広く、骨代謝を担う破骨細胞や骨芽細胞が多く存在するため、骨代謝変化による影響を受けやすい。腰椎など椎体骨はその大部分が海綿骨であり、大腿骨などの末梢骨は皮質骨が主体である。したがって、椎体骨は大腿骨よりも加齢や閉経に伴う骨量低下をきたし易く骨折リスクも高い。一方で、薬物療法による治療効果を得やすいのも椎体骨である。実際、薬物治療の進歩に伴い、椎体骨折の発生率は年々減少傾向にあるものの、大腿骨頸部骨折はいまだ増加傾向にある。</p>		
<b>&lt;研究シーズ説明&gt;</b>		
<p>海綿骨と皮質骨を分けて評価することは重要な課題であるが、それが可能な HR-pQCT は本邦では販売されていないことから、日本人を対象とした皮質骨に関する研究報告はほとんどない。ところが最近、海綿骨と皮質骨を分別して評価できる超音波骨密度測定装置(右図：LD-100, 応用電機社)が開発された。そこで我々は、この装置を用い皮質骨に注目した骨粗鬆症研究を進めている。</p>		
<b>&lt;アピールポイント&gt;</b>		
<p>骨の大部分を占める海綿骨は骨密度や骨代謝状態に反映されやすいため、腰椎骨密度や骨代謝マーカーは椎体骨の骨折予測因子として確立している。ところが、皮質骨を主体とする大腿骨頸部の骨折を予測しうるパラメータに確立したものはない。LD-100 で皮質骨の骨指標を評価することで、未開の領域であった皮質骨に着目した骨粗鬆症診療の新たな可能性が見出せるものと期待している。</p>		
<b>&lt;利用・用途・応用分野&gt;</b>		
<p>A) 下記疾患群において、皮質骨あるいは海綿骨の骨指標に影響を及ぼす因子につき比較検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 加齢や閉経に伴う原発性骨粗鬆症患者</li> <li>② クッシング症候群や原発性副甲状腺機能亢進症などの内分泌性疾患患者</li> <li>③ 糖尿病や慢性腎臓病などの生活習慣病患者</li> <li>④ ホルモン療法で治療中あるいは治療後の乳癌患者</li> </ol> <p>B) 各種骨粗鬆症治療の皮質骨あるいは海綿骨の骨指標への反応性を比較検討する。</p>		
<b>&lt;知的財産権・論文・学会発表など&gt;</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Mishima T et al. Decreased cortical thickness, as estimated by a newly developed ultrasound device, as a risk for vertebral fracture in type 2 diabetes mellitus patients with eGFR of less than 60 mL/min/1.73 m<sup>2</sup>. Osteoporos Int. 2015;26:229.</li> <li>● 元山宏華他. 代謝・筋肉 筋力低下および筋力低下を伴う内臓肥満は2型糖尿病の皮質骨厚低下と関連する. 糖尿病合併症 (31)2017;225.</li> <li>● 中村 美之他. 2型糖尿病女性の皮質骨骨粗鬆症に対する筋力低下および内臓肥満の関連. 日本骨粗鬆症学会雑誌 (3)2017;266.</li> </ul>		
<b>&lt;関連するURL&gt;</b>		
<a href="http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interm2/">http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interm2/</a>		
<b>&lt;他分野に求めるニーズ&gt;</b>		
なし		
<b>キーワード</b>	骨粗鬆症、海綿骨、皮質骨、超音波骨密度測定装置	